

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	14			2つの部屋を活動に合わせて使っている
	②	職員の配置数は適切であるか	14			マンツーマンを基本にしているので、個別課題や学習タイムを児童に合わせて行える
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	14			ピアノの曲や、部屋の色、個別課題の様式や場所、プログラム絵カード等、室内も内容もすべて構造化している
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	14			遊具や絵本棚などの配置を、子どもの動きや活動にあわせて配置している
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	14			支援計画を中心にPDCAサイクルに従って行動している。その他業務は職員がマニュアルを作成してそれに沿って動いている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	14			参考にしていきたい
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	14			HPで毎年公表しているが、今年も職員たちも一緒に話し合っていきたい
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	14			第3者評価の仕組みはないが、地域や実習関係の大学などでの評価をいただいている
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	13	1		年数回、コンチェルトでの研修会を行っており、実習生や外部も参加可能としている
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	14			心理担当職員を中心に、発達検査を行い、家族の要望も聞き取って支援計画に繋げていたが、研修を行う中で、職員全員がアセスメント可能になっている
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	14			発達検査を2種類行って利用すると共に、病院等からの検査資料も活用している
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	14			家族の希望や家での様子を聞き取った上で、子どもの発達状況を検査して作成しているが、園や他の施設での様子も参考に作成している。家族支援も大事に考えている
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	14			通所の日には毎回、支援計画を見て、個別や集団の課題を確認することから始めている

	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	14			通常の集団活動はリーダー会議で行っているが、長期休みの特別プログラムはスタッフ会議で全員で意見を出し合い考えている
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	14			通常の集団活動はリーダー会議で行っているが、長期休みの特別プログラムはスタッフ会議で全員で意見を出し合い考えている
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	14			適切に作成している
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	14			活動前のミーティングを全員で行っている
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	14			気付いた点などはリーダー(担任)を中心に聞き取っているが、参加した全員も、終了後に各児童の記録を書いている
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	14			担当者は、担当児の児童記録を客観的に書くが、職員も日誌に内容を記録している
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	14			担当者は定期的に担当児のモニタリングを行っており、支援計画に反映させている
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	14			グループの担任や、施設長などとともに、子どもの担当者も一緒に参加している
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	14			関係機関との連携を大事に捉えており、連絡を取り合っている
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	12			病院の紹介や依頼を行ったり、資料を作成して連携会議に参加するなど、よりよい方法を考えている
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	12			病院の紹介や依頼を行ったり、資料を作成して連携会議に参加するなど、よりよい方法を考えている
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	13			作成した発達状況資料や支援計画などを園などにも渡すと共に、可能な時には訪問して話し合っている(2020年度は訪問できなかったが)
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	13			小学校等への移行は、親からの依頼によって、親へ資料を渡して、届けてもらっている
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	13			センターでの研修には参加しているが、代表が各所で研修会や講習会等の講師を行っているため、内部研修も有益である
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	11	2		例年交流していたが、コロナ禍のため難しかった
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	10	2		子ども部会にも参加しているが、2020年度はコロナ禍のため集まるのが難しかった

保護者への説明責任等	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	13			毎日の連絡帳のほか、その日の様子を迎えにきた親に伝えたり、親からの相談も聞いている
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	13			保護者を対象に学習会を毎年行っているが、2020年度はコロナ禍のため中止した
	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	13			契約の親にはしっかり説明している
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	13			説明すると共に同意のサインをいただいている。支援の結果も対面で伝え、文書も渡している
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	13			相談の希望があった場合は時間を取って話を聞き、助言等を行っている。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	10	2		今年度はコロナ禍のため難しかったが、例年は父母の懇談会を企画して、話し合ったり、グループのビデオを見たりしていた。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	13			相談などは迅速に対応し、時間を取って話を聞いているが、子どもの状況によっては事業所の電話のほかに、緊急電話も用意して緊急の場合にも対応している。
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	13			「コンチェルトだより」を紙ベースで発行して渡しているが、HPにも載せている。お知らせや行事に関してなどは、手紙等を渡している
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意しているか	13			充分注意し、職員や実習生たちにも徹底している
	③⑲	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	13			親が送迎しているため、毎回、意思の疎通ができるとともに、親の気持ちや予定等も聞きとれる
④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	10	1		ハロウィンやクリスマスなど、地域の応援をいただいたり、地域に発信したりしているが、2020年度は交流が難しく、物を介したやり取りであった。	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	14			子どもたちの玄関や、職員の部屋の壁に貼ってある。子どもたちにはSSTの練習などを通して危機管理の大事さを伝えている
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	14			職員には火災報知関連の会社のほうから出向いてもらって、火災などでの避難の説明を毎年聞いてもらっている。大きな子どもたちのグループでは避難訓練を行っている
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	13			把握している。緊急時に医療が必要になった時のことも、事前に話し合い対応している

④④	食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか	13			通所前に親から聞き取って対応している
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	12	1		保険対応や、第1次医療への相談の場合は記録しているが、ヒヤリハット事例としてまだない。記録を心掛ける
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	14			家族や地域、学校等との交流の多い事業所のため、親や職員の虐待はないが、代表が虐待防止法や差別解消法の講師をしているため、内部研修や親への研修も行っている
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	14			身体拘束に該当する児童もいない。該当する場合もない

○この児童発達支援自己評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価をしていただくものです。

「はい」、「どちらともいえない」又は「いいえ」のいずれかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」、「課題や改善すべき点」等について記入してください。